



独立行政法人 国立病院機構

北海道がんセンター

都道府県がん診療連携拠点病院

病院のご案内
2016年度版

私たちちは、国民の健康で幸福な生活のため
最新の知識と医療技術をもとに
良質で信頼のある医療の提供に努め
特に「がん克服」に寄与することを目指します

National
Hospital
Organization
Hokkaido
Cancer
Center



北海道がんセンターでは 診療科を超えた 横断的な治療体制で がんと生活習慣病の 診療と研究に取り組んでいます

独立行政法人 国立病院機構
北海道がんセンター

院長 近藤 啓史



当院は昭和42年北海道初の放射線治療器リニアックを導入、翌年道の強い要請より「北海道地方がんセンター」の併設がなされました。そして平成16年に『北海道がんセンター』と改称し、平成21年には道内唯一の「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定され、がん専門病院として札幌市内はもとより道内全域をカバーしています。

当院の診療方針は、がん患者が抱える不安や併存症、生活習慣病とともに診療していくという考え方です。26診療科があるのはそのためであるといえます。その際チーム医療や組織・部門を横断するシステムが必要となってきます。当院の強みは、各がん分野の専門医師がいて、がんに関する各種認定・専門の看護師および薬剤師が多数いることです。さらに放射線治療では3人の常勤医、1人の非常勤医そして放射線治療器を管理する医学物理士、品質管理士が複数常勤している全国的にもまれな病院です。

我々はこの8年間、各科・各部門を横断的かつ高度ながん診療を行っていく体制を作ってきました。今後も利用しやすい病院作りを目指していきたいと考えています。



検査・入院・手術

道内各地の病院や医院からの紹介患者さんを積極的に引き受け、連携・協働を密にしながら、検査・入院・手術に迅速に対応しています

北海道がんセンターの理念

私たちは、国民の健康のために、良質で信頼される医療の提供に努めます。

基本方針

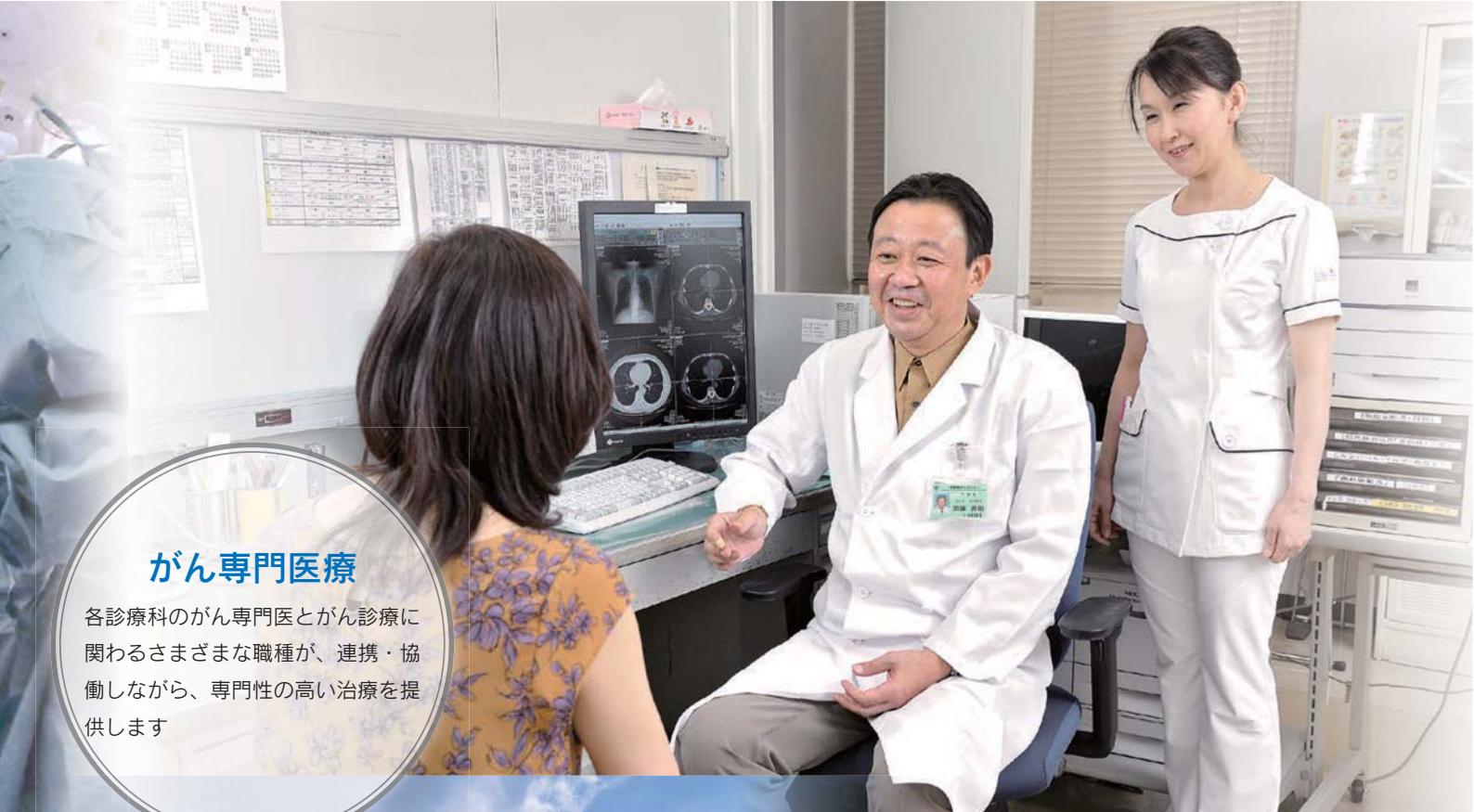
- 特に、「がん克服」に寄与することを目指します
- 常に医療の質と技術の向上を目指します
- 医療安全を確保し、安心できる医療を提供します
- 患者さんの権利を尊重し、誠実な医療を実践します
- 研究、教育研修を推進し、医学・医療の発展に寄与します

患者さんの権利

- 人格が尊重され、良質な医療を平等に受ける権利があります
- 十分な説明を受け、自分が受けている医療について知る権利があります
- 自らの意志で、医療に同意し、選択し、決定する権利があります
- 個人のプライバシーが守られる権利があります

患者さんの責務

- 良質な医療を実現するため、医師等に患者さん自身に関する情報を正確に提供してください
- 納得出来る医療を受けるため、良く理解出来なかつた説明については、理解出来るまで質問してください
- 他の患者さんの医療及び職員の業務に支障を与えないようにご配慮ください



研究・研修・教育

臨床に基づく研究や院内外の医療従
事者のスキルアップへの取り組み、
市民を対象とした講演会を継続的に
開催しています

沿革

- 明治29年12月 札幌衛戍病院（後の札幌陸軍病院）として開院（月寒）
昭和20年12月 国立札幌病院（厚生省に移管）に改称
昭和27年 当地（菊水）に進出して市内診療所を開設
昭和32年 16診療科450床鉄筋の総合病院となる
昭和42年 道内初の放射線治療器リニアック導入
昭和43年 北海道の要請により北海道地方がんセンターを併設
がん病棟100床増築
昭和58年 第三次救急医療施設併設
昭和61年 現在の施設になる（昭和54年から7期にわたる更新築）
平成16年 4月 独立行政法人移行に伴い「北海道がんセンター」となる
平成17年 1月 地域がん診療拠点病院に指定
平成21年 2月 都道府県がん診療連携拠点病院に指定
平成22年 3月 救命救急センター部門が北海道医療センターに機能移転
平成24年 4月 歯科口腔外科を新設し、25診療科460床の運用となる
平成24年10月 病院前駐車場を購入
平成27年 5月 25診療科443床の運用となる
平成27年 6月 ICUを4A病棟に統合
平成28年 4月 DPC対象病院となり、感染症内科を加えた26診療科
436床の運用となる

最高の技術・最新の医療機器で 専門性の高いがん治療を提供



呼吸器
センター

センター長
原田 真雄



サルコーマ
センター

センター長
平賀 博明



高度先進内視鏡外科
センター

センター長
原林 透



外来化学療法
センター

センター長
佐川 保



内視鏡
センター

センター長
藤川 幸司



前立腺
センター

センター長
永森 聰

平成26年度より当院では、医科、歯科、看護部、コメディカル部門などを横断したセンター化構想を開始しました。

各センターによって治療の対象となる内容は違いますが、基本的には患者さんを中心とした医療を実現するための標榜科を横断した、より柔軟なシステムです。

各センターには、センター長を中心に優秀な人材を横断的に連携、情報共有できるようにしました。

北海道がんセンターとして改革のための努力を継続し、患者さんの期待に沿える医療技術とケアの提供を行います。

センター医療

Center medical

外科療法は、がん病巣を完全に切除することで根治性を高めることを目的として実施されますが、もし局所を完全に切除できない場合でも、がんによる症状を緩和し生存に寄与することができます。

近年、治療技術や手術に用いる器具の進歩により大きく発展しています。我々は最先端の診療技術を提供するとともに、患者さんの不利益とならないよう安全性保持には充分配慮しております。以下は治療実施例です。

- ①形態を温存、再建する手術…乳房温存手術、センチネル生検、乳房再建手術
- ②内視鏡を用いた手術…胃、食道、大腸がんに対する消化管粘膜切除
- ③胸腔鏡・腹腔鏡を用いた手術…肺、胃、大腸、直腸、腎・前立腺、子宮・卵巣、乳がんなどに対する手術
- ④手術支援ロボット(ダ・ヴィンチ)を用いた先進的手術…前立腺、子宮、胃がんなど
- ⑤機能を温存する手術…性機能を温存する直腸・前立腺がん手術、子宮・卵巣を温存する婦人科系腫瘍に対する手術、喉頭機能を温存する手術、膀胱全摘後の尿路再建術
- ⑥拡大手術…胸膜肺全摘術、骨盤内臓全摘術など

外 科 療 法

Surgical treatment



私たちは地域のがん診療の中心となる施設として、専門的な知識や技術を持った医師や看護師、放射線技師、薬剤師などのさまざまな分野のスペシャリストが連携・協働する集学的医療を実践しています。



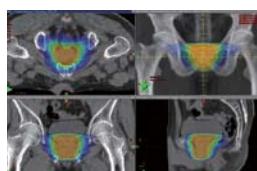
放射線療法は、外科療法・化学療法とともにがん治療に不可欠なものです。日本でも屈指の治療患者数（平成27年／1190人）である当院には、4人の治療専門医、4人の医学物理士（博士3人）および6人の放射線治療専門技師がいます。北海道でもトップクラスの充実したスタッフを誇っております。

体外照射は複数のリニアックを使った最適なエネルギーのX線や電子線を使用し、副作用の少ない治療を行っています。コンピュータ制御で、がん病巣だけに集中照射しながら、周囲の正常組織にはほとんど照射されないSRT（定位放射線治療）（平成27年治療人数／脳17人、体幹部28人）やIMRT（強度変調放射線治療）（平成27年治療人数／頭頸部29人、前立腺66人、その他27人）を症例に応

じて実施しています。IMRTの進化形で短時間の高精度治療が可能な最新の治療法である

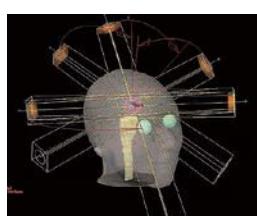
VMAT（強度変調回転照射）を積極的に行ってています。さらに呼吸同期放射線治療やIGRT（画像誘導放射線治療）の導入で、より高精度の治療が可能となっています。また、症例に応じて低線量率・高線量率小線源治療も行っております。

形態や機能を温存し、QOLを維持できる放射線治療は、根治的治療はもちろん進行がんや再発・転移がんに対しても有効です。



IMRT【強度変調放射線治療】

病巣へ放射線を集中させ、病巣の周りにある正常な組織への放射線の影響を最低限に抑え、治療を行っています。



SRT【定位放射線治療】

小さな病変に3次元的に大量の放射線を集中照射し短期間で治療します。周囲の正常組織への被ばくを極力抑え、病変の部分にのみ高線量の照射が可能です。

放射線療法

Radiation therapy

化学療法

Chemotherapy



新規の抗がん剤や分子標的薬の開発が進んでいます。生存に寄与する効果が明らかな場合には、術後補助療法としてこれらの薬剤が用いられることがあります。また消化器がん・婦人科がん、頭頸部がんなどのいくつかのがんにおいては、化学療法だけでなく放射線や手術と併用し集学的な治療を行うことで、さらに治療効果を向上させています。

外科切除が不可能な状況においても、薬物療法を用いることで局所をコントロールし、転移の進展をおさえ生存の延長を目指します。

白血病など血液腫瘍領域においては、通常量よりも多い抗がん剤を安全に使用し、がん細胞を死滅させた後に造血幹細胞移植を行う治療も行われています。

患者さんにはできるだけ家で生活を継続できるようにするために、外来治療センターを充実させています。副作用管理の重要性も認識しており、医師・薬剤師・看護師がしっかりとサポートします。

当院はがん薬物療法の治験と医師が主導する臨床試験では北海道で最も多くの実績があります。最新の診療情報を提供し、患者さんが選択できる医療を行っていきます。

一人ひとりの患者さんに
最善の治療方法を探り実践する
診療科

高度な知識と技術を持った医師が診療科の枠を超えて、
連携・協働しながら心身全体を診る総合的な医療に取り組んでいます。

定員医師数 73人、レジデント6人、臨床研修医2人、非常勤1人（平成28年7月1日現在）



院長
近藤 啓史



副院長
加藤 秀則



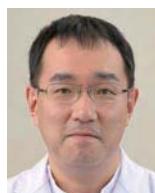
統括診療部長
高橋 將人



教育研修部長
永森 聰



内科系診療部長
高橋 康雄



内科系診療部長
大泉 聰史



外科系診療部長
濱田 朋倫



放射線診療部長
西山 典明

消化器内科

内科系診療部長：高橋 康雄
医長：藤川 幸司、林 翼
腫瘍内科医長：佐川 保
医員：田村 文人、濱口 京子、櫻田 晃

消化器（食道、胃、大腸、肝・胆・脾）悪性腫瘍を中心に診療しており、抗がん剤治療だけでなく、内視鏡手術や肝臓のラジオ波焼灼・塞栓療法も行っています。臓器別専門外来を開設し、より専門的な診療を提供しています。標準的な治療がなくなつた患者さんには新規薬剤による治験も可能です。

血液内科

医長：黒澤 光俊
鈴木 左知子、米積 昌克
医員：宮内 あずさ

急性白血病、慢性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの血液がんや種々の貧血、多血症、血小板增多症、血小板減少症、骨髓異形成症候群、血液凝固異常症など各種血液疾患を診療しています。血液がんに対しては化学療法を中心として、造血幹細胞移植や放射線療法を組み合わせた治療を行っています。

循環器内科

医長：井上 仁喜
医員：山本 清二
併任医師：明上 順也

循環器疾患はもとより、糖尿病、内分泌疾患、腎疾患、睡眠時無呼吸症候群と広い守備範囲を担当しています。また、がんセンターの循環器内科として、各診療科ががん診療に専念できる環境を提供することを診療の柱としています。

腫瘍内科

腫瘍内科

臓器の枠にとらわれないがん診療を行う科です。当院では肺がん・乳がん・消化器がんなどは、それぞれの専門診療科が担当となります。がん診療では「原発不明がん」など従来の臓器別診療では診療科がはつきりしなかつたがんも存在することから、当科ではこれらに対する治療を行っています。

呼吸器内科

内科系診療部長：大泉 聰史
医長：原田 真雄、福元 伸一
医員：山田 範幸、渡邊 雅弘

呼吸器悪性腫瘍の診断と内科的治療を行う診療科として、主に肺がん患者さんの診療を行っています。検診による早期発見から画像診断、内視鏡診断、細胞病理診断、臨床試験などの最新治療までオールラウンドに精通しており、総合的に質の高い肺がん診療を提供しています。

緩和ケア内科

緩和ケア内科

医長：松山 哲晃

がんでは、初期あるいは治療中から痛みや不安など心身のつらさが生じますが、それらを十分に緩和することが治療の効果や予後に良い影響を与えます。当科では、専門の医師・スタッフが身体のつらさ、心のつらさに対して病初期からの緩和ケアを提供します。

消化器外科

外科系診療部長：濱田 朋倫
医長：篠原 敏樹、二川 憲昭、前田 好章
医員：片山 知也

消化器悪性腫瘍（食道、胃、結腸、直腸、肝胆脾）に対し進行度に応じた治療を、がん手術に精通したスタッフのもとで行っています。また初診から手術まで2週間を目指し、待たせない治療を心掛けています。

乳腺外科

統括診療部長：高橋 將人
医長：渡邊 健一、富岡 伸元
医員：佐藤 雅子、山本 貢
レジデント：1人

北海道で手術症例が最も多い施設の1つですが、手術以外にも再発・転移にて紹介された患者さんも受け入れ診療しています。治験・臨床試験なども積極的に行い、乳がん治療において先進的な治療を提供しています。札幌市以外から多くの人を受け入れています。

泌尿器科

教育研修部長：永森 聰
医長：原林 透
腫瘍免疫科医長：三浪 圭太
医員：高田 德容

腎、膀胱などの限局がんに対して、腹腔鏡を用いて出血少なく早期に社会復帰できる治療を行っています。進行がんでは精密な診断のもと、抗がん剤療法と手術、放射線療法を組み合わせ、長期に有効な治療を行っています。前立腺がんに対しては、小線源放射線療法にも口ポット支援手術にも対応しています。

骨軟部腫瘍科 (腫瘍整形外科)

医長：平賀 博明、小山内 俊久
医員：相馬 有
レジデント：1人

北海道唯一の骨軟部腫瘍専門の診療科であり、骨肉腫、軟部肉腫、転移性骨腫瘍などの診断と治療を行っています。患肢温存手術および化学療法に実績をもち、臨床試験や治験を通じて新しい治療にも意欲的に取り組んでいます。

頭頸部外科

医長：永橋 立望
医員：山田 和之
レジデント：井戸川 寛志

頸部の良性と悪性の腫瘍の治療を行っています。甲状腺、耳下腺、顎下腺、口腔、舌、咽頭、喉頭などに発生する腫瘍が治療対象です。発声、構音、嚥下など日常生活に重要な機能を要する部位のため、機能温存を目指した治療を行っています。

呼吸器外科

院長：近藤 啓史
医長：安達 大史、有倉 潤
医員：水上 泰、上田 宣仁

特色は肺がん、縦隔腫瘍などの疾患に安全な血管処理と確実なリンパ節郭清を胸腔鏡手術で完成させたこと。そして、この技術を開胸および良性の疾患にまで応用しています。また、待たせずに入院、治療の体制をつくり「外科医はハートと腕」をモットーにしています。

形成外科

医長：齊藤 亮
レジデント：濱田 えりか

乳腺外科、頭頸部外科、腫瘍整形外科、皮膚科などの協力のもとに、主に悪性疾患の治療や手術後の変形や欠損に対する再建術を行っています。また、皮膚良性腫瘍や眼瞼下垂といった形成外科領域全般に対する治療も行っています。

婦人科

副院長：加藤 秀則
医長：藤堂 幸治、岡元 一平、
見延 進一郎
医員：大場 洋子、古田 祐、竹下 瑞

症例数は全道一を誇り、内視鏡に代表される初期がんに対する低侵襲治療から、他科との合同根治手術、試験的な先進医療まで広範囲に診療を行っています。特記すべきは研究活動です。日本のガイドラインに影響を与えるエビデンスを発信し続けています。

リハビリテーション科

医長：平賀 博明
理学療法士：7人 作業療法士：1人
言語聴覚士：1人

がんのリハビリテーションの特徴は、がんの進行、手術や化学療法、放射線治療に伴う症状に対して予防を含め治療のどの段階においても対応できることです。患者さんがよりよい療養生活を送り、自分らしく生きるためのサポートを行うため多職種共同のチーム医療を行っています。

皮膚科

医長：佐藤 誠弘

皮膚腫瘍の診断、手術を行っています。皮膚悪性腫瘍では、基底細胞がん、有棘細胞がん、悪性黒色腫を主に扱っています。抗がん薬による皮膚障害は、紹介患者も含め積極的に治療を行っています。抗がん薬による皮膚障害や褥瘡、がん性創傷については多職種チーム医療を行っています。

放射線治療科

放射線診療部長：西山 典明
医長：小野寺 俊輔 医員：西川 昇
レジデント：長江 伸樹

豊富な放射線治療の経験を有する国内有数の診療科です。通常の放射線外部照射に加え、化学放射線治療、高精度放射線治療（強度変調放射線治療、定位照射など）、密封小線源治療（高線量率と低線量率照射）、アイソトープ内用療法という方法を適切に使い分け、患者さん中心の適切な医療を行っています。

眼科

医長：水本 博之
視能訓練士：1人

主に眼科一般の診療を行っています。網膜疾患や緑内障などへのレーザー治療や、日帰り手術にも対応しています。道内・市内に多くの関連病院があり、スムーズな連携を行っています。

腫瘍免疫科

医長：三浪 圭太

免疫療法は外科的療法・化学療法・放射線療法に次ぐ、第4の治療法として注目されています。現時点では標準治療に抵抗する症例が対象です。当院では現在、大腸がん・膀胱がんに対するペプチドワクチン治療の治験を行っています。今後、対象疾患を増やす予定です。

心臓血管外科

併任医師：石橋 義光

当科は平成22年3月に北海道医療センターへ機能移転し、現在は週1回金曜日に外来診療のみ行っています。精査治療の必要な場合は北海道医療センターへの入院となります。心臓血管について何かありましたら気軽に受診してください。

麻酔科

医長：土屋 健二、森下 健康
医員：川原 みゆき、上村 佐保子、
本田 高史、本田 奈緒

年間約2000件前後の手術症例に麻酔科専門医が関わっています。われわれ麻酔科スタッフ一同は、手術中の患者さんの安全を図ることはもちろんのこと、手術中・手術後の痛みを可能な限り取り除き、手術が的確に、よりスムーズに行われるようサポートしています。

臨床検査科

科長：鈴木 宏明
副科長：藤田 崇宏
臨床検査技師：22人

患者の皆様の血液や尿の検査、超音波（エコー）検査、肺機能検査、心電図検査、輸血の検査、感染症の検査、手術や内視鏡検査などで採取された組織や細胞の検査など、多岐にわたる検査に携わっています。迅速で正確な検査を心がけています。

放射線診断科

医長：市村 亘 医員：坂井 亘、田中 七
レジデント：中川 純一
非常勤：朴 貞恩

放射線診断科ではCT、MRI、核医学検査、FDG-PET検査などを主体とする画像診断業務と血管造影装置、X線透視、CT、超音波診断装置等を用いた画像誘導下での検査・治療（IVR：Interventional Radiology：肝細胞がんに対する動脈化栓塞術、中心静脈ポート留置、診断確定のための針生検など）を行っています。

脳神経外科

医長：伊林 至洋

脳神経外科は現在、外来だけの診療です。主に脳の悪性腫瘍、特に転移性脳腫瘍の診断、治療方針の決定を行っています。分かりやすい、懇切丁寧な説明を心がけています。それ以外にも生活習慣病などが原因となる脳梗塞や認知症の診断なども行っています。

歯科口腔外科

医師：秦 浩信
歯科衛生士：3人

がん治療中に生じるお口の中のさまざまなトラブルに対応することで、皆さんのがん治療に専念できるようにしっかりとサポートいたします。入院中はもちろんですが、外来通院の方も地元の歯科医院と連携しながら対応いたしますので、お気軽にご相談ください。

感染症内科

医師：藤田 崇宏

感染症内科は当院でがんの治療を受ける患者さんに起きる感染症の予防、診断、治療について、全科からの相談を受けて診療を行っています。また院内で感染症が流行したり、薬剤耐性菌が広まつたりしないよう、感染対策活動や抗菌薬適正使用の活動も行っています。

病理診断科

臨床研究部長：山城 勝重
医員：鈴木 宏明、野口 寛子

「がん」という診断名が確定されるには顕微鏡で「がん細胞」を確認しなければなりません。3人の病理専門医と6人の臨床検査技師（細胞検査士4人）がこの仕事に従事しています。がん細胞の性質、広がりなどを詳細に調べ、患者さん一人ひとりの治療方針が決められています。

口腔腫瘍外科

医長：上田 倫弘

口腔がん（舌がん、口腔底がん、頬粘膜がん、歯肉がん）、唾液腺腫瘍、上下顎骨に発生する悪性腫瘍、良性腫瘍を対象とし、関連各科と密接な連携のもと、手術、放射線治療、化学療法、分子標的薬を組み合わせた集学的治療を行っています。生存率の向上、形態・機能の温存をめざした治療に取り組んでいます。

専門外来

禁煙外来	月 13:00～【要予約】
睡眠時無呼吸外来	水 8:30～11:00 受付
緩和ケア外来	担当医・担当看護師までお問い合わせください
ストーマ外来	水 13:00～【要予約】
リンパ浮腫外来	火 9:00～12:00 【要予約】
遺伝子先端医療外来	水 13:00～【要予約】

セカンドオピニオン 外来	担当医・担当看護師までお問い合わせください (保険診療対象外)
がん何でも相談外来	月 10:00～12:00 【要予約】 (保険診療対象外)
がん看護外来	主治医にご相談ください

がん検診

当院はがん専門医による「がん検診」を実施しています。ご希望の方は、事前ご予約のうえ検診をお受けください。(完全予約制)。



乳がん検診	金 14:30～
前立腺がん (PSA) 検診	月・木 11:00～
子宮がん検診	水・金 13:00～

大腸がん検診	月～金 14:00～
胃がん (胃内視鏡) 検診	金 ①9:00 ②9:20 ③9:40
胃がん (胃バリウム) 検診	火 ①9:20 ②9:40

検 診		価 格	
子宮がん 検診	①札幌市検診 札幌市在住の満20歳以上で 偶数歳の方 (2年に1回)	子宮頸がん検診	1,400円 (税込)
		子宮頸がん・子宮体がん検診	2,100円 (税込)
乳がん 検診	②定額検診 検診結果郵送用に 別途切手代82円必要	70歳以上の偶数歳	無料
		子宮頸がん検診	3,710円 (税込)
	①札幌市検診 札幌市在住の満40歳以上で 偶数歳の方 (2年に1回)	子宮頸がん・子宮体がん検診	6,480円 (税込)
		40～49歳	1,800円 (税込)
	②定額検診	50～69歳	1,400円 (税込)
		70歳以上の偶数歳	無料
	※別途オプションで乳腺エコー	49歳以下	5,710円 (税込)
		50歳以上	5,400円 (税込)
			2,160円 (税込)

検 診		価 格	
胃がん 検診	胃内視鏡	8,500円 (税込)	
	札幌市検診	40歳以上	2,200円 (税込)
前立腺 がん 検診	胃バリウム検査	70歳以上	無料
	通常	2,160円 (税込)	
大腸がん 検診	4大がん検診、腹部3大がん検診と同日に受けた場合 (月曜のみ)	1,700円 (税込)	
	札幌市検診のみ	40歳以上	400円 (税込)
		70歳以上	無料

■4大がん検診コース 19,760円(税込)

月・水 ①14:00 ②14:20 ③14:40

●低線量CTによる肺がん検診

●胃カメラによる上部消化管がん検診

●腹部エコーによる肝胆脾腎脾検診

●便潜血反応による大腸がんスクリーニング

■腹部3大がん検診 11,120円(税込)

月・水 ①14:00 ②14:20 ③14:40

●胃カメラによる上部消化管がん検診

●腹部エコーによる肝胆脾腎脾検診

●便潜血反応による大腸がんスクリーニング

■低線量肺CTによる肺がん検診 8,640円(税込)

8,640円(税込)

月～金 ①12:00 ②15:00

外来予約センター ☎011-811-9111 [受付時間：月曜～金曜（祝日除く）13:00～16:00]

※外来予約センター窓口（外来管理棟1階）でも直接受け付けています ※予約変更は7日前までにお願いいたします

地域医療連携室 ☎011-811-9117

地域の病院・医院の先生方と協力を密接にし医療連携を行っております。それぞれの医療機関の特徴にもとづく医療の提供が患者の皆様にとって最良なものであると考え、患者さんの紹介受け入れ、逆紹介、在宅療養へ向けてのカンファランスなどを実践しています。

紹介予約

●地域の病院・医院・介護施設などの先生方からの患者紹介を受け、予約を短時間で行い事前にカルテを作成します。

●患者さんからの電話予約をお受けします。ただし紹介状をご持参の方に限らせていただきます。「何科にかかるべきですか？」など紹介状がない方には電話でのご相談に応じています。

退院支援

退院後も安心して生活できるように、在宅療養支援や転院を支援します。

医療連携

地元の医療機関と連携を図り、当院への円滑な紹介や逆紹介を進めています。

相談支援



がん患者さんやご家族、または地域住民に対してがん医療に関する情報提供や相談支援を行っています。個々に適した支援が病状の変化に即応しながら、途切れることなく提供されるよう、地域の関係機関と密接に連携しています。

がん相談支援センター（がん相談支援情報室）

病気や身体のこと、生活のことなどさまざまな問題に対し、専従の専門がん相談員（看護師と医療ソーシャルワーカー）が、患者さんやご家族などのお話をうかがい、悩みや心配ごとを少しでも解決できるように、お手伝いさせていただきます。

■がん相談【予約不要・相談無料】

専従の専門がん相談員（看護師と医療ソーシャルワーカー）が、がん・悪性腫瘍を患っている患者さんやご家族などのお話をうかがい、さまざまな悩みや心配ごとを少しでも解決できるように、お手伝いします。

■就労相談【相談無料】

仕事に関する心配事について、就職支援ナビゲーター（ハローワーク札幌東）、社会保険労務士、医療ソーシャルワーカーが相談に応じて、一緒に考えます。

- 就職支援ナビゲーター：毎月第1・3水曜日（午後は要予約）
- 社会保険労務士：毎週水曜日（要予約）

アピアランスケアコーナー

外見に関する悩み相談やウィッグ、帽子、人工乳房、下着、ネイルなどの試着・貸与を行っています。患者さんが安心して治療に専念し、療養生活が送れるよう支援します。



■がん患者活動サロン「ひだまり」【参加無料】

患者さん、ご家族など、さまざまな方々が、お茶を飲みながら体験談や悩みなどをお話できる場です。



【会 場】当院管理棟4階

【開催日時】

第2水曜 10:00～12:00 [ウィッグレンタルサロン 13:00～15:00]

第4金曜 13:30～15:30 [ウィッグレンタルサロン 10:00～12:00]

※ウィッグレンタルサロン…☎011-615-6060

お問い合わせ

●がん相談、就労相談、がん患者活動サロン「ひだまり」

☎011-811-9118 [受付時間：月曜～金曜（祝日除く）9:00～17:00]

■セカンドオピニオン外来【完全予約制・30分10,800円（税込）／以降30分毎に10,800円追加】

現在、どこかの病院にかかっている患者さんで、治療方針について悩んでいる方、ほかの専門医の意見（セカンドオピニオン）を聞いてみたい方と、そのご家族の方が対象です。

■がん何でも相談外来【完全予約制・30分5,400円（税込）／以降30分毎に5,400円追加】

現在、診察を受けられている医師の診療情報提供書や資料が準備できないなど、既存の体制では対応できない事情をお持ちの患者さんの相談に応じます。（医療費、医療訴訟、医療機関に対する苦情に関する相談は対象外です）

※相談担当医：西尾 正道 名誉院長（毎週月曜）

お問い合わせ

●セカンドオピニオン外来、がん何でも相談外来

☎011-811-9117（地域医療連携室）[受付時間：月曜～金曜（祝日除く）9:00～17:00]

緩和ケア



「がんと診断された時」から、患者さんの痛みや倦怠感などのさまざまな身体的な症状や、落ち込み・不安などの精神的なつらさを和らげるためのケアです。当院では患者さんとご家族のQOL改善を目的に緩和ケアに取り組んでいます。

緩和ケアセンター

緩和ケアセンターは、「緩和ケアチーム」、「緩和ケア外来」、「がん看護外来」、「緩和ケア病床」（現在緩和ケア病棟はありません）を統括して、すべてのがん患者さんやそのご家族に対して、適切な緩和ケアを診断時から切れ目なく提供するための組織です。
※がん相談支援センター内に窓口があります

緩和ケアチーム

入院患者さんを対象に病気や治療によるつらい症状や悩みを緩和し、その人らしい日々を送ることができるようサポートします。多職種が主治医と協力して対応します。



緩和ケアは「がん治療」と一緒にはじめるケアです

緩和ケアを受けることのメリット

- がん治療中の苦痛を伴う症状(吐き気、痛み、倦怠感など)が緩和され、がん治療に取り組む力が湧いてきます。
- 患者さんやご家族の不安や心配事など、心のつらさを和らげることができます。

緩和ケア外来

外来患者さんを対象に、がんの痛みや治療に伴う副作用、気持ちの落ち込みや不眠などの精神面を緩和するための治療をしています。



がん看護外来

がんと診断された患者さんの療養上の不安や心配事を一緒に考え、心理社会的支援を行います。当院のがん看護外来は、専門的な知識や技術を持つ看護師が担当しています。

がん専門看護師・がん化学療法認定看護師・放射線療法看護認定看護師・乳がん看護認定看護師・緩和ケア認定看護師が対応します。曜日によって担当が決まっていますのでご相談ください。



緩和ケア研修

がん診療に携わる医師が、緩和ケアの基本的な知識・技術・態度を習得する研修会を年1回開催しています。平成28年3月現在、当院医師の約8割が研修を修了しています。



がん患者サポートミニレクチャー

がん患者さんのケアに必要な知識を学ぶ、月2回の勉強会を開催しています。

[平成28年度内容の一部]

睡眠薬の特徴

せん妄

麻薬の種類

鎮 静

睡眠薬で眠れないとき

麻薬の基本

疼痛評価

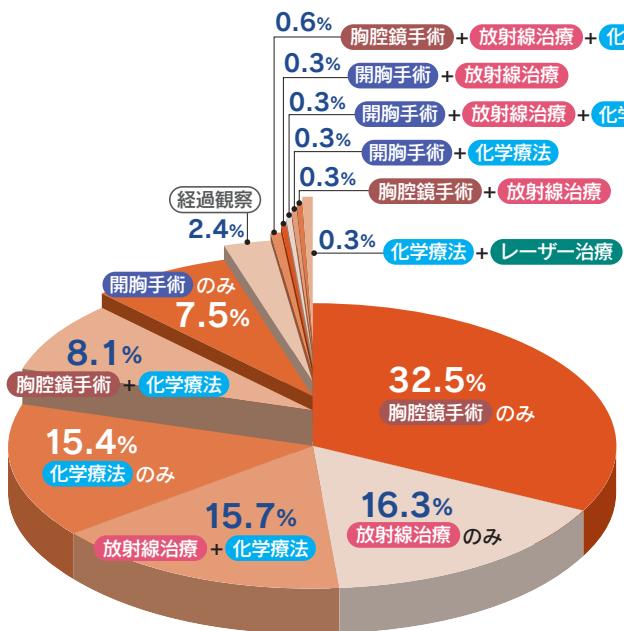
神経障害性疼痛と治療薬

平成27年度 院内がん登録 主ながん部位別 治療方法実績

肺がん



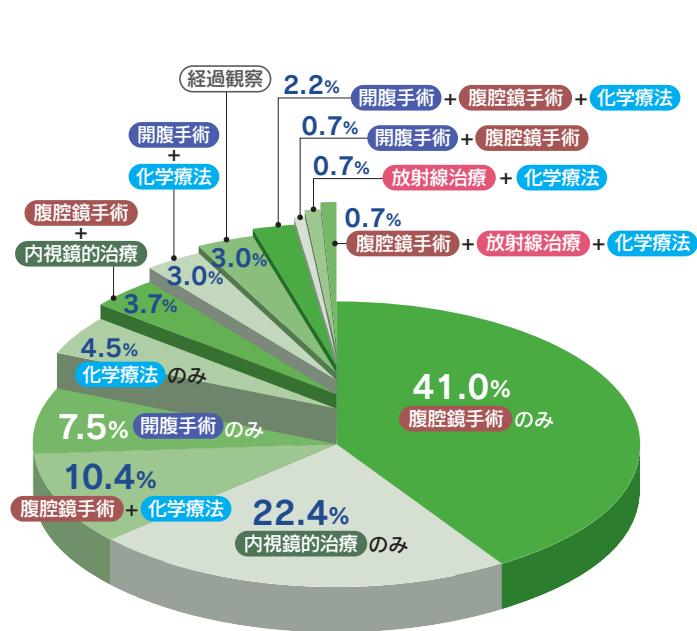
全登録数 434
当院治療例 332



大腸がん



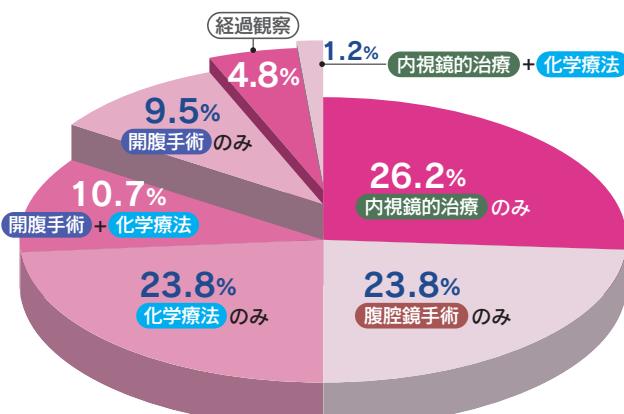
全登録数 174
当院治療例 134



胃がん



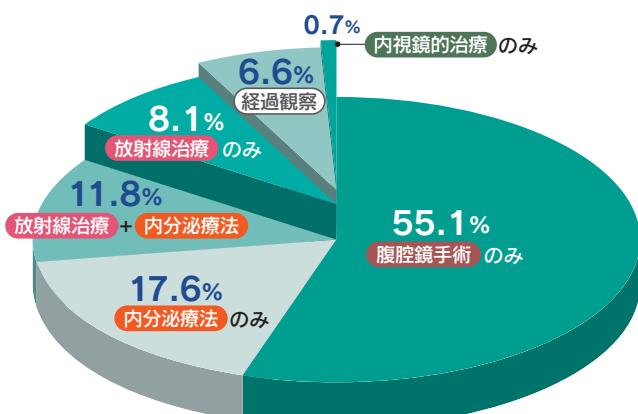
全登録数 97
当院治療例 84



前立腺がん



全登録数 221
当院治療例 136



当院は「都道府県がん診療連携拠点病院」として、平成21年4月に院内がん登録室を設置し、専任の診療情報管理士が「院内がん登録」を実施しています。

当院治療例…症例区分2：自施設で診断ならびに初回治療（経過観察も含む）を実施した症例／症例区分3：他施設で診断確定され、自施設で初回治療（経過観察も含む）を実施した症例

乳がん



全登録数
当院治療例

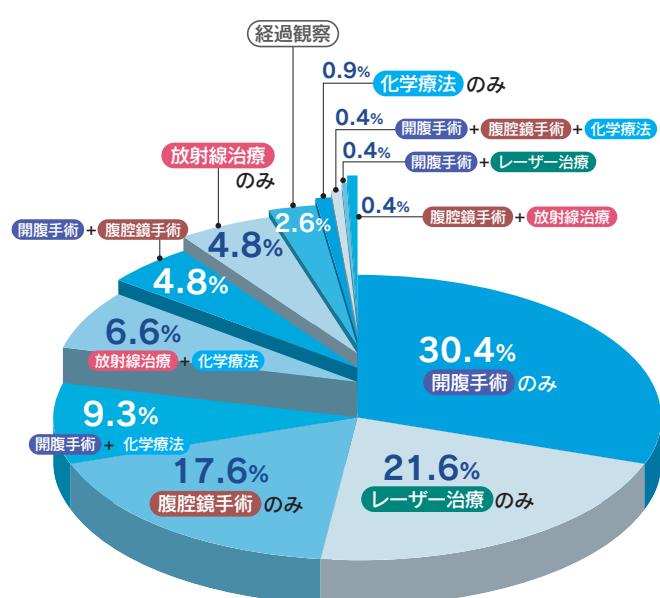
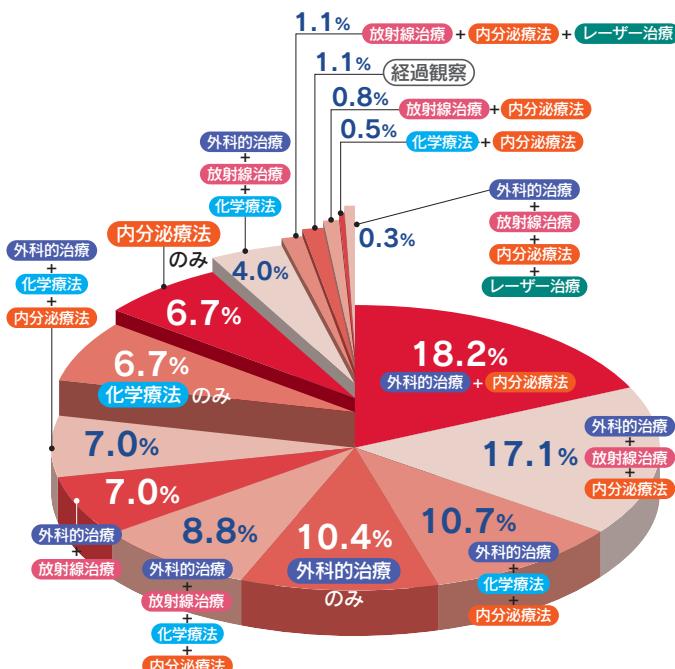
528
374

子宮頸がん



全登録数
当院治療例

243
227

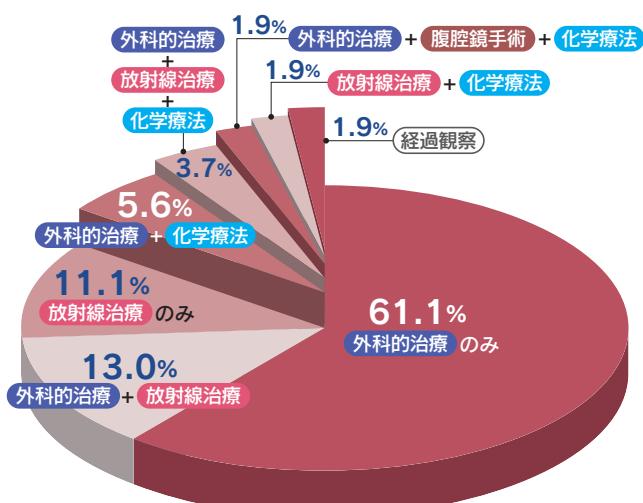


骨・軟部腫瘍



全登録数
当院治療例

79
54

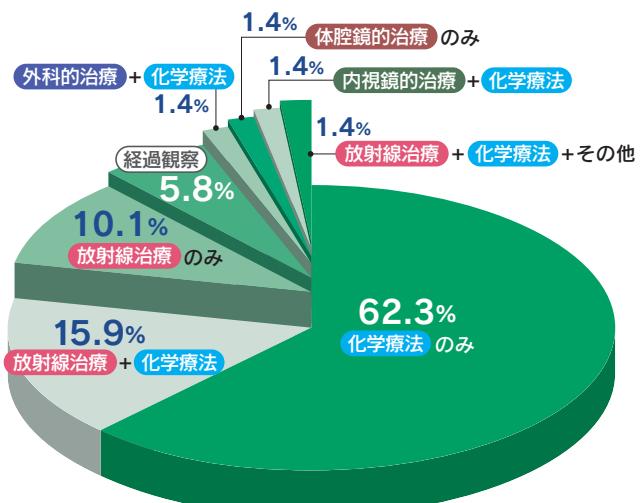


悪性リンパ腫



全登録数
当院治療例

76
69



高度な知識と技術で 生命の尊厳を守る 看護体制

患者さんの人生に寄り添う看護を

看護部長 井田 昌子



患者さんの8～9割が、がん患者さんという当院では、がん看護の専門性を高める充実した教育体制の下で、臨床実践を積んだ看護師が外来・病棟・ICU・手術室などに所属し、がんの専門治療に携わるチームの一員として、多角的な視点でがん患者さんに関わっています。

看護部では、専門的な知識と確実な技術に加え、がん患者さんが直面し抱えている全ての問題に一緒に向き合うことができるよう、患者さんに心を傾けることが必要だと考えています。

がん予防、早期発見、がん医療、緩和・心のケアの充実など、総合的ながん対策プランが求められる中、私たちは、専門職業人としての看護実践能力をさらに高め、患者さんにとっての最善の医療・看護とは何か、患者さんやご家族の気持ちにどのように寄り添い支えることができるのかを常に考え、患者さんがこれまでの人生で大切にされてきたものを尊重した看護を提供したいと思っております。

看護部理念

患者さんの目線に立った、心のこもった看護を提供します

看護部基本方針

1. 患者の権利を尊重し、満足が得られる看護を目指します
2. 常に看護の質を追求し、科学的根拠に基づく看護を実践します
3. 他職種と協働し、患者さんが安心して療養できる環境を提供します
4. 専門職業人としての自覚を持ち、自己の能力開発に努めます

看護の視点

看護師は患者さんの表情、行動を目で見て、訴えや会話の変化に耳を傾け、わかりやすい言葉で説明し看護します。また、家族の患者さんへの思いや心配に配慮し、あたたかな言葉で応対しましょう。

看護部長 井田 昌子

副看護部長 本間 瞳子、春口 優紀

■専門病院入院基本料（7対1）：8単位

■外来・手術室：2単位

■看護体制：7対1看護職配置

チームナーシング

■勤務体制：病棟 3交替勤務

■看護職員数：常勤看護師 339人

非常勤看護師 28人

(平成28年6月1日現在)



がん患者さんが必要としている看護を提供できるよう、がん看護のスペシャリストである専門看護師、認定看護師を加えたチーム医療を実践しています。



看護部

平成28年4月から
診療看護師を配置しています

北海道がんセンターでは、4月から診療看護師(JNP : Japanese Nurse Practitioner)を医療チームの一員に迎えました。

診療看護師は、大学院で2年間の特別な教育を受け、医師の指示のもと、厚生労働省が定めた検査や処置などの行為を行うことが認められた看護師です。



印銀 里絵子



病棟	運用定床	診療科編成	特別室数
2F 病棟	49	放射線科・頭頸部外科・血液内科	12
手術室／ICU	6		
4A 病棟	54	消化器外科・呼吸器外科・乳腺外科	5
4B 病棟	50	呼吸器内科	3
5A 病棟	58	婦人科	4
5B 病棟	49	血液内科	
6A 病棟	60	消化器内科	4
6B 病棟	50	泌尿器科・循環器内科・皮膚科・眼科	4
7F 病棟	60	乳腺外科・骨軟部腫瘍科（腫瘍整形外科）・緩和ケア内科	14

専門看護師・認定看護師 看護のスペシャリストが活躍しています

がん看護専門看護師	がん性疼痛看護認定看護師	緩和ケア認定看護師	がん化学療法看護認定看護師
副看護師長 菊地 美香	副看護師長 畠中 陽子	看護師長 武藤 記代子	副看護師長 佐々木 由紀子
看護師 青木 公美	副看護師長 高橋 由美	副看護師長 高橋 由美	副看護師長 高橋 由美
がん放射線療法看護認定看護師	乳がん看護認定看護師	皮膚・排泄ケア認定看護師	感染管理認定看護師
副看護師長 佐々木 あゆみ	副看護師長 宮崎 絢香	副看護師長 倉橋 小夜子	副看護師長 鈴木 綾子
看護師 一戸 真由美	副看護師長 栗山 陽子	副看護師長 栗山 陽子	副看護師長 栗山 陽子

常に高みを目指す 研究・治験

当院の臨床研究部は、昭和63年10月に設置され、全入院患者の8～9割を占める悪性腫瘍の集学的治療と関連して、臨床病理・がん臨床情報・腫瘍マーカー・遺伝子診断などによる診断技術の研究、臨床と密着した化学療法の研究を行っています。

臨床研究部長
山城 勝重



研究室

正確な診断方法や適切な治療方法を開発することを目指す臨床研究の倫理性、公正性を確保するために、当院では必要に応じて外部の委員を交えた倫理審査委員会を開催。成果が期待できる研究には、国立病院機構本部や国などと連携し研究費の助成を行なうなどの支援も行なっています。その活動実績は毎年「臨床研究部業績集」として刊行され、またホームページにも掲載しています。



臨床研究部による研究課題発表会

臨床研究部が現在行っている研究

臨床病理研究室	がん臨床情報研究室	遺伝子工学研究室	細胞工学研究室	化学療法研究室
組織のモノクローナル抗体による診断、各種がんの生物学的特性の解明	遠隔病理診断（術中迅速診断、細胞診）、がん登録、退院患者要約に関する研究	白血病、悪性リンパ腫、各種固形腫瘍の染色体、腫瘍遺伝子の研究	白血病、悪性リンパ腫を中心とした表面マーカーの研究	各種抗がん剤の薬理動態に関する研究など

治験管理室

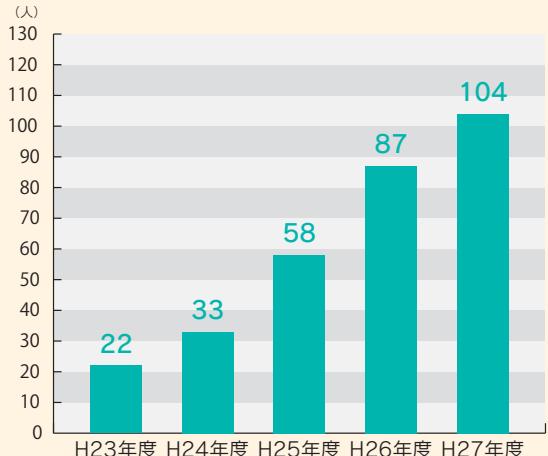
治験管理室では、医薬品・医療機器の開発および臨床研究の推進、医療の発展への貢献のため、院内の関連部門と協力しながら治験の管理業務などを行っています。依頼された治験が適切に実施されるよう、また治験参加される患者さんに気持ちよく治験を続けていただけるよう、専属の職員（臨床試験コーディネーター、治験事務員、データマネージャー）が常駐しています。

また、当院では平成22年より6件（消化器内科、泌尿器科、婦人科）の第Ⅰ相試験に取り組んでいます。

●当院で行っている治験

診療科	実施対象疾患
乳腺外科	乳がん
骨軟部腫瘍科 (腫瘍整形外科)	軟部腫瘍・肉腫
婦人科	卵巣がん 子宮頸がん 進行固形悪性腫瘍
呼吸器内科	非小細胞肺がん 小細胞肺がん 尿路上皮がん
泌尿器科	前立腺がん 進行・再発膀胱がん 腎細胞がん

●治験実施患者数の推移



院内外に広がる学びの場 研修・教育

当院は医師の卒後教育・生涯教育および専門領域の教育を行うに適した施設として、国および各学会から各種の指定を受けています。また、がんに特化した症例検討会やミニレクチャーなどを定期開催し、お互いにスキルアップしながら、がんの克服を目指して前進しています。

院内研修

連携医療機関から紹介された症例の報告と院内外講師による関連したミニレクチャーを行う「がん診療連携症例検討会」は平成20年から年2回（1月・7月）開催。他にも職種別や多職種参加の研修会などが行われています。



がん診療連携症例検討会

専門教育

●臨床研修医およびレジデントの教育

昭和46年3月に臨床研修指定病院、昭和63年3月に臨床修練指定病院となり、多数の臨床研修医・レジデントの一般教育、専門医の育成を行っています。

●実習生の教育

そのほかの医療従事者育成の実習施設として、年間約400余名の医師・看護師・薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・栄養士・臨床工学技士・理学療法士の実習生を受け入れ、実習教育の機関としての機能を発揮しています。



臨床研修医の研修

子どもたちへの「がん教育」

平成25年より、若い世代から予防、早期発見、医療など、がんに関する正しい知識の普及啓発を図るために、北海道、札幌市教育委員会と協力し、小学生に対する「がん教育出前講座」という授業を行っています。がんの専門家（医師）として病院長自らが行うこの授業は、平成26年から、がんの教育総合支援事業として中学生、高校生に対しても「がん教育」として行われています。



平成26年11月18日 中学生に対する「がん教育」(札幌市立東月寒中学校)

テーマ 「生活習慣病 がんのことをもっと知ろう」 講演者：近藤院長

平成26年12月 4日 高校生に対する「がん教育」(北海道立天塩高等学校)

テーマ 「生活習慣病 がんのことをもっと知ろう」 講演者：近藤院長

平成27年 2月 4日 小学生に対する「がん教育出前講座」(南幌町立南幌小学校)

テーマ 「がんのことをもっと知ろう」 講演者：近藤院長

平成27年 1月 30日 教職員・学校医・保護者・行政関係者等を対象とした「がんの教育」研修会（北海道教育委員会主催）

テーマ 「がんの理解とその対応」 講演者：近藤院長

平成27年 9月 25日 中学生に対する「がん教育」(札幌市立簾舞中学校)

テーマ 「がんのことを知ろう中学生向（予防編）」 講演者：近藤院長

健康啓発活動

市民を対象にした「北海道がん講演会」を昭和58年から毎年6月に実施しており、平成27年末までに35回を開催しました。



北海道がん講演会

がんを捉える 高度医療機器



手術支援ロボット ダ・ヴィンチ

da Vinci Surgical System

前立腺がんの機能温存とがん根治の両者を満足させる高度な手術を拡大された立体視と7つ方向に自由に動く関節をもつ鉗子によって行います。術中出血はごく少量で、術後合併症もなく、術後早期の尿禁制率は大きく改善しています。膀胱全摘除術、腎部分切除術、子宮悪性腫瘍手術、胃悪性腫瘍手術などへの普及が見込まれています。



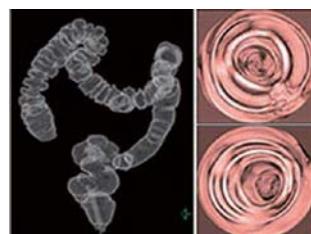
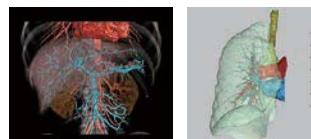
直径11.6mm
長さ31.5mm



大腸 カプセル内視鏡

PillCam® COLON2

平成26年1月から保険診療の対象となり、大腸がんの早期発見につながることが期待されています。口から水と一緒に飲み込むカプセルには両端2個の小型カメラとLED光源、バッテリーが装備されており、毎秒4～35枚のスピードで大腸の腸管内を撮影します。



64列 マルチスライスCT

GE Optima CT660

血管や骨・臓器などをさまざまな方向の断面で表示したり、画像を立体化（3D画像）して表示します。

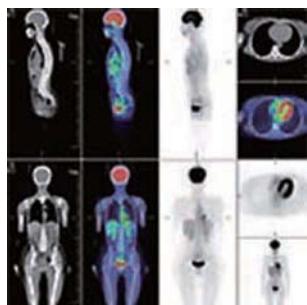
CT画像から大腸の3D画像や仮想内視鏡画像（大腸内部を内視鏡で観察しているような画像）を作ることができます。大腸バリウム検査や内視鏡検査よりも体の負担が少なく、狭窄や憩着、内視鏡検査に不安や苦痛がある方にも安心して大腸の検査を行うことができます。



FDG-PET

島津 Eminence G

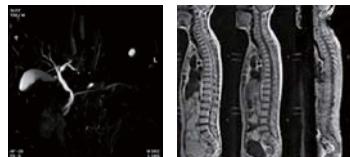
がんの発生場所の特定や悪性度を推測することができます。



MRI

PHILIPS
Gyroscan Intera / Achieva

放射線を使わず、強い磁石と電波を使って写真を撮影する検査で、被ばくすることなくさまざまな角度のからだの断面が撮影可能です。



平成27年度 実績 DATA

患者の状況

【病床】

運用可能病床数／443床
入院患者数／6,688人
在院延患者数／136,006人
一日平均在院患者数／371.6人



【外来】

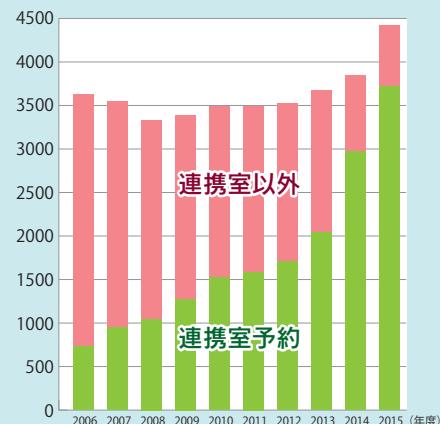
新患者数／6,709人
再来患者数／138,977人
患者延数／145,686人
一日平均外来患者数／590.9人



地域別 紹介患者数



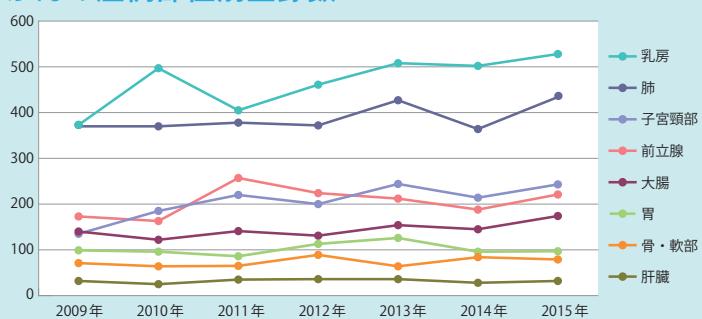
連携室予約の推移



がんの登録数

2009～2015年

がんの症例部位別登録数

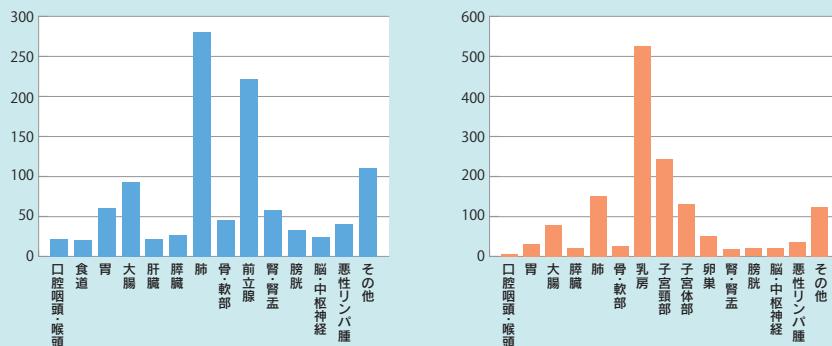


地域・院内がん登録室

がんのさまざまな情報を把握するため、院内のがん登録を行っています。また、北海道の業務委託を受け、道内がんの統計データも集計しています。



2015年 がんの性別・部位別登録数



※食道（女性9例）肝臓（女性9例）乳房（男性1例）は「その他」で集計



独立行政法人 国立病院機構

北海道がんセンター

都道府県がん診療連携拠点病院

所在地 〒003-0804 札幌市白石区菊水4条2丁目3番54号

TEL 011-811-9111(代表) FAX 011-832-0652

ホームページ <http://www.sap-cc.org/>



病床数

敷地面積

延床面積

建物階数

駐車場

一般520床

19,840.78m²

34,439.09m²

地上7階、地下1階

164台

標榜診療科
26科

循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、血液内科、精神科、緩和ケア内科、感染症内科、消化器外科、乳腺外科、腫瘍整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、頭頸部外科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、病理診断科、臨床検査科、リハビリテーション科、歯科口腔外科

■施設立面図

外来管理棟

会議室

臨床研修医室
管理部門
がん患者活動サロン「ひだまり」
図書室

管理部門

血液内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、形成外科、眼科、緩和ケア内科、感染症内科、頭頸部外科、歯科口腔外科、口腔腫瘍外科、がん看護外来

消化器／乳腺／呼吸器／骨軟部腫瘍科（腫瘍整形外科）、採血外来治療センター、地域医療連携室、薬局、受付（入院・外来）、会計（入院・外来）、がん相談支援センター、外来予約センター、緩和ケアセンター、理美容室、喫茶コーナー

食堂

病棟	
7F	7F病棟
6F	6A病棟 6B病棟
5F	5A病棟 5B病棟
4F	4A病棟 4B病棟
3F	手術センター 中央材料室 ICU ICU家族待機室
2F	2F病棟 臨床研究部 臨床検査部門 内視鏡室
1F	栄養管理室 栄養指導室 理学療法室 売店
B1	管理部門 地域がん登録室



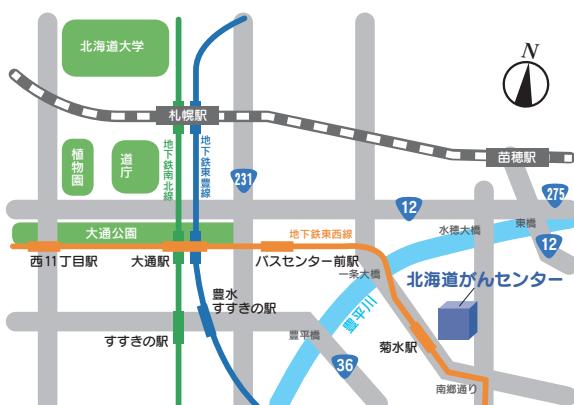
外来診療棟

指定医療機関

- ① 健康保険法保険医療機関
- ② 国民健康保険法保険医療機関
- ③ 老人保健法指定医療機関
- ④ 労働者災害補償保険法指定病院
- ⑤ 生活保護法指定病院
- ⑥ 結核予防法指定病院
- ⑦ 更正医療指定病院
- ⑧ 育成医療指定病院
- ⑨ 養育医療指定病院
- ⑩ 原子爆弾被爆者医療指定病院
- ⑪ 戰傷病者医療指定病院
- ⑫ 公害健康被害補償法公害医療機関
- ⑬ 臨床研修指定病院
- ⑭ 身体障害者福祉法指定医
- ⑮ 精神保健法指定医
- ⑯ 母体保護法指定医
- ⑰ 救急告示病院

■病院機能

- ・臨床研修病院
- ・臨床修練病院
- ・札幌市災害時基幹病院
- ・原子力災害緊急被ばく医療施設
- ・日本医療機能評価機構認定病院
- ・都道府県がん診療連携拠点病院
- ・全国がん（成人病）センター協議会加盟病院
- ・各学会専門医認定医指導施設
- ・エイズ治療拠点病院
- ・北海道の指定する肝疾患に関する専門医療機関
- 等



地下鉄 地下鉄東西線「菊水駅」下車、3番出口より徒歩約3分
バス JR北海道バス「菊水駅前」バス停から徒歩約3分
自動車 札樽自動車道 札幌インター→エンジから約20分
※第1、第2駐車場がございます。（合計164台程度駐車可）

地域医療連携室

地域の病院・医院の先生方との協力・連携をスムーズに行うため、患者紹介の受付や予約を短時間で行い、事前のカルテ作成を行っています。

直通FAX 011-811-9110

直通電話 011-811-9117
受付時間／9:00～17:00（月～金 ※祝日は除く）

北海道がんセンター Webサイト
スマートフォン・タブレット用への
アクセスはこちらから

